

エントリー学校名：兵庫県姫路市立白鷺小中学校

活動名：学校と地域の協働活動 世界遺産姫路城中曲輪蝶園創造事業

解決すべき課題：

(1) 国の特別史跡内という特殊な事情のため、校内に一般的なビオトープが造れない。子どもたちに自然を身近に感じる環境を用意してやり、自然を大切にすることで郷土愛を深めることにつなげたい。義務教育学校、コミュニティ・スクールとして、9 年間の学びの充実を行うと同時に、地域の再開発・少子高齢化の影響による新旧の住民や保護者どうしの交流・世代間の交流の活性化など学校を核とした新しいコミュニティの構築が必要である。
 (2) 姫路市には滞在型・周遊型の観光への転換といった課題があり、観光資源の充実が必要である。

目標・方針：

(1) 子どもたちが校内にバタフライガーデンを創造することで蝶の飛び交う魅力的な学校づくりを行う。
 (2) SDG s の理念のもと、学校が中心になり、PTA・地域・行政・各種団体等と協働しながら、姫路城周辺に 400 年前の蝶の飛び交う風景を再現するために、白鷺小中学校を中心としたエリアに蝶の生態観察のできるスポットを創造し、姫路城周辺の新たな地域資源・観光資源とする。

活動内容：

(1) 総合的な学習の中で市蝶ジャコウアゲハと地域の歴史や文化を学び、また蝶の専門家に話を聞くなどして探究的な学習を行った。
 (2) 子どもたちが PTA や地域ボランティアの協力を得ながら、ジャコウアゲハの食草であるウマノスズクサと蜜源となる植物を校内に植栽した。またウマノスズクサを「根伏せ」により増やし、次の学年が使用する苗の作成をおこなった。さらに発展させ、生物多様性・外来種問題・環境保全などの学習成果を地域に掲示するなどして情報発信を行った。中学部では 8 年生が後輩達のために英語で観光パンフレットを作成した。パンフレットは姫路駅の観光案内所に配架し、学校の教育活動や観光情報を観光客にも PR した。
 (3) 白鷺学校運営協議会の協力を得ながら、活動への参加を呼び掛け、中曲輪にある県・私立学校や企業等にも育てた苗や資材を提供し、賛同や協力を得ることで、地域に協働の輪を広げた。

活動の成果：

(1) 子どもたちが毎日通る登下校のルートに食草と蜜源植物を植栽したので、すべての児童生徒が蝶の生態を観察することができ、蝶の羽化するタイミングに出会うなど、生命のダイナミズムを身近に感じることができている。毎日休み時間になると観察や植物の世話をを行う児童も見られた。自分たちの手で地域の環境を守るという体験をとおり、郷土愛を深めることができた。
 (2) 多くの PTA が子どもたちと一緒に植栽作業に参加していただいた。また PTA と地域住民どうしの交流も図ることができ、『参加してよかった』『子どもたちと活動できて楽しかった』と大変好評であった。
 (3) 活動を広めていく中で、今まで近くにありながら、なかなか交流の機会がなかった県・私立学校、公的施設、各種団体、民間企業、行政機関ともつながることができた。これを機会に新たな教育活動の展開にも生かしていきたい。
 (4) 授業中にジャコウアゲハが教室に遊びに来るなど個体数が増えてきているのを身近に感じる。姫路城周辺の散策を楽しむ地元の方からも『今年は蝶が沢山飛んでいるな〜』との声を聞き、手ごたえを感じている。

アピールポイント（アイデアや工夫）：

(1) 学校の活用されていなかったスペースが地元の方や観光客も蝶の生態観察を楽しむことができる場所に生まれ変わり、教育環境の充実や学校施設の充実につながった。どの学校にも応用が可能な方法である。
 (2) 学校と地域の有志とでクラウドファンディングを行い活動資金の捻出をした。またマスコミ・フリーペーパー・SNS で取り上げてもらい、広く学校の教育活動・地域貢献や SDG s について知ってもらうことにつながった。
 (3) コミュニティ・スクールの活動が県の環境保全団体として認められ、学校の教育活動が地域の活動にもつながり、長期に持続可能な活動へ発展させることができた。
 (4) 教育活動と地域貢献の視点が評価され、(公財)都市緑化機構の緑の環境プラン大賞コミュニティ大賞を受賞した。また博報堂教育財団の第 51 回日本文化・ふるさと共創教育領域で博報賞を受賞した。

写真 1：PTA・地域ボランティアと基地づくり



写真 2：休み時間に観察する子どもたち



写真 3：児童の発表作品と中学部生徒による英語の観光案内カードで地域活性化に貢献



写真 4：姫路城中曲輪バタフライガーデンのエリア拡大中

写真 5：地域と協働しクラウドファンディングを成功させ、活動資金を確保した。また活動は SNS で世界中に発信中

